



日本ライフライン株式会社

2023 年 3 月期決算説明会

2023 年 5 月 11 日

※本トランスクリプトは SCRIPTS Asia Inc.により作成されたものです。

イベント概要

[企業名]	日本ライフライン株式会社		
[企業 ID]	7575		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2023 年 3 月期決算説明会		
[決算期]	2023 年度 通期		
[日程]	2023 年 5 月 11 日		
[ページ数]	35		
[時間]	13:30 – 14:21 (合計：51 分、登壇：36 分、質疑応答：15 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]			
[登壇者]	4 名		
	代表取締役社長	鈴木 啓介（以下、鈴木啓介）	
	代表取締役副社長	鈴木 厚宏（以下、鈴木厚宏）	
	常務取締役 管理本部長	山田 健二（以下、山田）	

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



上席執行役員

江川 毅芳（以下、江川）

[アナリスト名]*

大和証券

山崎 裕樹

みずほ証券

森 貴宏

野村證券

甲谷 宗也

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本

050-5212-7790

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com



登壇

司会：皆様、お待たせいたしました。日本ライフライン株式会社、2023 年 3 月期決算、および中期経営計画説明会を開始いたします。

本日は、代表取締役社長、鈴木啓介、代表取締役副社長、鈴木厚宏、常務取締役、山田健二、上席執行役員、江川毅芳の 4 名が出席しております。

本日の説明会は、2 部構成となっております。最初に、代表取締役副社長、鈴木厚宏、常務取締役、山田健二から、2023 年 3 月期通期決算と 2024 年 3 月期業績について、約 30 分ご説明したあと、質疑応答を行います。

その後、代表取締役社長、鈴木啓介から中期経営計画についてご説明したあと、質疑応答を行います。

会議全体の時間は約 75 分を予定しております。オンラインで会議に参加されている方がいらっしゃると思いますが、シー・ミーティングにて会議の様子をご覧いただけます。当社ホームページに発表資料を掲載しておりますので、そちらでも、資料をご確認いただくことが可能になっております。

会議をはじめます前に、皆様にお断り申し上げます。これから行う説明におきまして、現時点の予想に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、それらは全てリスクならびに不確実性を伴っております。皆様には、実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご承知おきください。

では、常務取締役、山田より、2023 年 3 月期通期決算についてご説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2023/3期 連結業績サマリー（通期）

通期実績 損益ハイライト	売上高		営業利益		当期純利益	
	51,750 百万円	YoY +281 (+0.5%)	10,837 百万円	YoY +863 (+8.7%)	6,891 百万円	YoY ▲592 (▲7.9%)
✓ 保険償還価格の下落*1や新型コロナ感染拡大の影響を販売数量の増加で吸収し 増収 ✓ 前期に一時的なコスト増加要因があったことで 営業増益 （過去最高益） ✓ 3Qに投資有価証券評価損（特別損失）を計上したため、当期純利益は 減益						
品目別売上高 ハイライト	リズムデバイス YoY ▲4.4%			EP/アブレーション YoY +4.8%		
	↓ (－) 保険償還価格の下落 (－) 市場競争の激化			↑ (+) AF症例数の増加 (+6%) (－) HeartLight X3の供給不足		
	外科関連 YoY +10.2%			消化器/PI*2 YoY ▲35.4%		
	↑ (+) 人工血管関連が好調 (+) 塞栓用コイルの寄与			↓ (－) Orsiro*3の大幅減		

* 金額百万円未満は切捨（以降のスライドも同様）

*1 2022/4に保険償還価格が改定

*2 前期までインターベンションと表記しておりましたが、当期より消化器/PIと改称しております

*3 薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro(オシロ)」2022/6に独占販売契約を終了し、以降は在庫販売のみを行っています

4

山田：常務取締役の山田でございます。それでは私から、2023年3月期の通期決算につきご報告させていただきます。

まずお手元の資料、4ページ目です。連結業績のサマリーとなります。

こちら通期となっております、第4四半期3カ月に関しましては、巻末に参考資料として付けておりますので、ご覧いただければと思います。

それではまず売上高です。売上高に関しましては、やはり昨年の4月に保険償還価格の改定があったこと、それから前期中も新型コロナ感染の影響というのがございました。

一方で、コロナの影響もございましたが、期末にかけて非常に影響というのも限定的になってまいりまして、アブレーション治療等を中心に販売数量増加したという部分で、マイナスの部分をはほぼ吸収いたしまして、売上高としてはほぼ前期並み、前期比プラス2億8,100万円という形で終わりました。

続いて、営業利益でございますけれども、これは前期に一時的な費用として治験費用、約2億9,000万ほど発生しておりましたが、今期はその部分がございません。そういったところと比較いたしまして、営業利益といたしましては、前期比8.7%増、108億3,700万円。当社といたしましては最高益となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

当期純利益でございますけれども、こちらは第3四半期に投資有価証券の評価損、これ特別損失で11億9,000万円計上させていただいております。その影響を受けまして、前期比7.9%マイナス、68億9,100万と最終減益という形となりました。

下段です。品目別の売上のハイライト、まずリズムデバイスでございますけれども、こちらはやはり先ほど申し上げた保険償還価格の影響、特に心臓ペースメーカ、価格の下落が大きかったということ。それからまた競合とも競争環境非常に厳しくなっておりますので、そういった状況を踏まえまして、リズムデバイス全体としては通期で前期比4.4%の減収となっております。

EP/アブレーションに関しましては、AF症例、心房細動の症例数が通期で前期比6%ほど伸びた、この部分は非常にプラスの要因となっております。一方、HeartLightのX3、こちら供給問題が前期中も断続的に発生しました。この部分は大きなマイナス要因となっております。

これらを踏まえましてEP/アブレーション全体といたしましては、前期比4.8%増、増収となっております。

下の段にまいりまして、外科関連です。こちらは人工血管関連が総じて非常に好調であったということ、また塞栓用コイル、こちらの方もプラスに寄与しております。

従いまして、外科関連全体といたしましては、前期比10.2%増ということで、非常に好調な結果で終わっております。

最後、消化器/PIでございますけれども、こちらはOrsiro、こちらの方がやっぱり大幅に売上を下げておりますので、こちらの影響が大きく出まして、全体としても35.4%の減収という形になっております。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



2023/3期 連結業績概況（通期）

✓ 前期比で増収、営業増益。当期純利益は減益

(単位:百万円)	2023/3期			2022/3期
	通期実績	YoY	%	通期実績
売上高	51,750	+281	+0.5	51,469
売上総利益	29,895	+1,060	+3.7	28,835
構成比	57.8%			56.0%
販管費	19,057	+196	+1.0	18,861
構成比	36.8%			36.6%
営業利益	10,837	+863	+8.7	9,973
構成比	20.9%			19.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	6,891	▲592	▲7.9	7,484
構成比	13.3%			14.5%
自社製品比率	54.9%			52.4%

売上高 YoY +0.5% 増収

(+) AF症例数の増加 (+6%)
 (-) 保険償還価格の下落
 (-) 新型コロナ感染拡大 (2Q~3Q)

営業利益 YoY +8.7% 増益

(+) 自社製品比率の改善 (+2.5pt)
 (+) 在庫の廃棄損・評価損の減少 (▲1,413M)
 (-) 保険償還価格の下落に伴う粗利率の悪化

当期純利益 YoY ▲7.9% 減益

(-) 前期に事業譲渡益 (116M)、子会社の組織再編に伴う繰延税金資産 (223M) を計上
 (-) 当期、投資先の事業計画見直しに伴う増資により保有株式の減損(特別損失)を計上 (1,190M)
 (+) 当期に子会社の譲渡および清算に係る子会社整理益を計上 (96M)

5

次のページ、こちらは損益でございます。

売上高に関しましては、今申し上げました通りほぼ前期並み、売上総利益、こちら総利益率を見ていただきますと、前期 56%に対して 57.8%ということで改善しています。

この改善の理由といたしましては、この表の一番下にございますように自社製品比率、こちらが 52.4%から 54.9%に上昇したということ、それから前期は Orsiro の廃棄、Orsiro を中心とした在庫の廃棄損、それから評価損がございましたが、その部分の影響がなかったということで粗利率が改善しております。

販管費につきましても、営業活動活発化等で、経費の支出増えてる部分ございますが、冒頭申し上げましたように、前期においては治験費用ございましたので、その分と相殺して、ほぼ前期並みという形で、営業利益といたしまして 108 億、これ営業利益率で見ますと 20%台を回復したという形になっております。

最後、当期純利益でございます。マイナス要因としてはやはり、先ほどの第 3 四半期に計上した特別損失、それから前期におきましては事業譲渡益ですとか、繰延税金資産の計上、こういったものがございましたけれども、この部分も今期ないということでマイナスになっております。

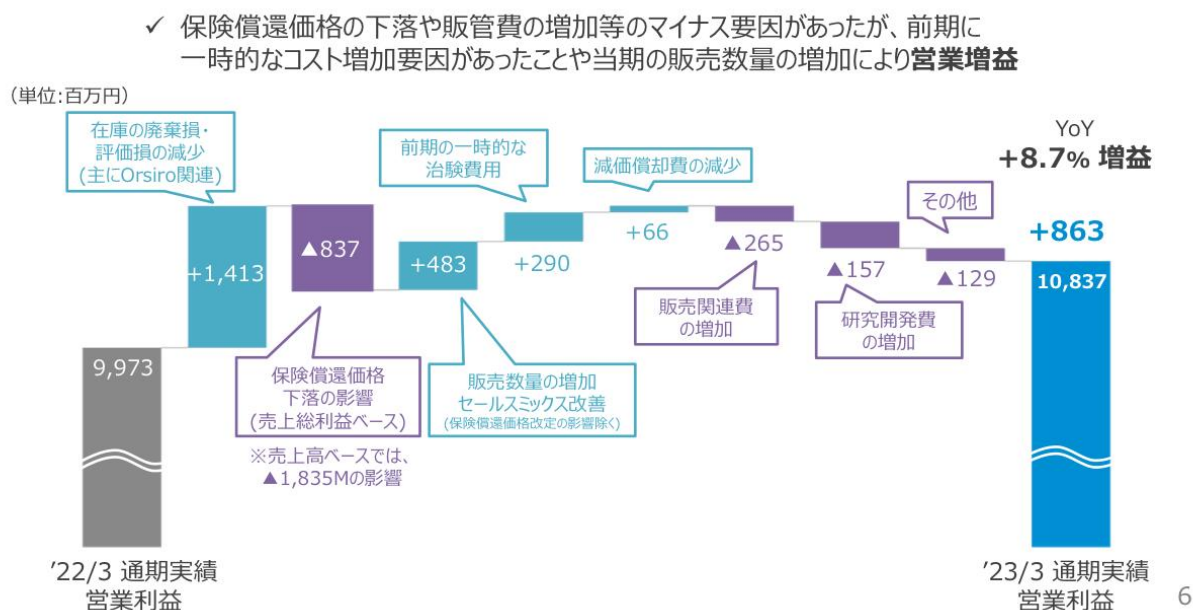
一方、プラス要因としましては、当社の子会社、香港、それから中国の二つの子会社をそれぞれ清算、譲渡いたしまして、トータルで子会社整理益という形が 9,600 万円計上されております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

以上のことで、最終当期純利益として前期比 7.9%マイナス、68 億 9,100 万円となっております。

2023/3期 連結営業利益 増減分析 (通期)



続いて、6 ページにまいります。こちらは前々期との営業利益の増減の分析でございます。

2022 年 3 月期、99 億 7,300 万円に対しまして、まず増加要因としては、先ほど申し上げました在庫の廃棄損、評価損の部分が大きく減ったというところ、こちらで約 14 億、影響ございます。

続いて、保険償還価格の下落、これ粗利ベースで 8 億強マイナスのインパクトがございました。それから販売数量の増加、それからセールスマックスの改善、この部分でプラスの 4 億 8,000 万。

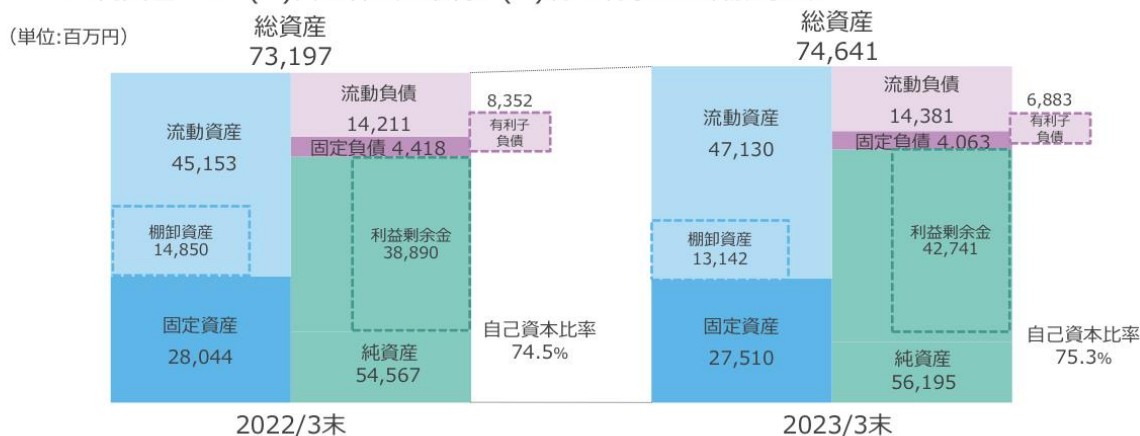
これ以降は販管費の部分でございますけれども、治験費用がなくなったということ、減価償却費が減ったということ、逆にプラス要因としましては、やっぱり販売関連費が増加していること、研究開発費の増加、そういったものがございまして、最終的に前期と比べて営業利益としては 8 億 6,300 万円のプラスとなっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2023/3期 連結貸借対照表（通期）

- ✓ 流動資産： 潤沢な営業CFより、設備投資・配当金の支払・自己株式の取得資金等を手元資金で賄ったうえで、現金及び預金が増加
棚卸資産はOrsiroやRF Needle等の契約終了により在庫が減少
- ✓ 固定資産： 投資有価証券評価損（特別損失）等により減少
- ✓ 純資産： （－）自己株式の取得や（＋）利益剰余金の増加等あり



7

7 ページにまいります。貸借対照表でございます。

まず流動資産の部分といたしましては、現金、および預金が増加しております。営業キャッシュフローの方がしっかり潤沢に創出できておりますので、必要となる設備投資であったり、配当の資金、自己株の取得資金、これらを手元資金で賄った上で、しっかり現預金が増加しているという状況でございます。

それから棚卸資産です。これ前期 148 億ございましたけれども、先ほど申し上げてる Orsiro ですか RF Needle、これらの契約終了等に伴い在庫が減少しておりますして、2023 年 3 月末では 131 億まで減少しております。

それから固定資産です。こちら先ほど来申し上げておりますように、投資有価証券の評価損を計上している関係で、こちらも減少となっております。

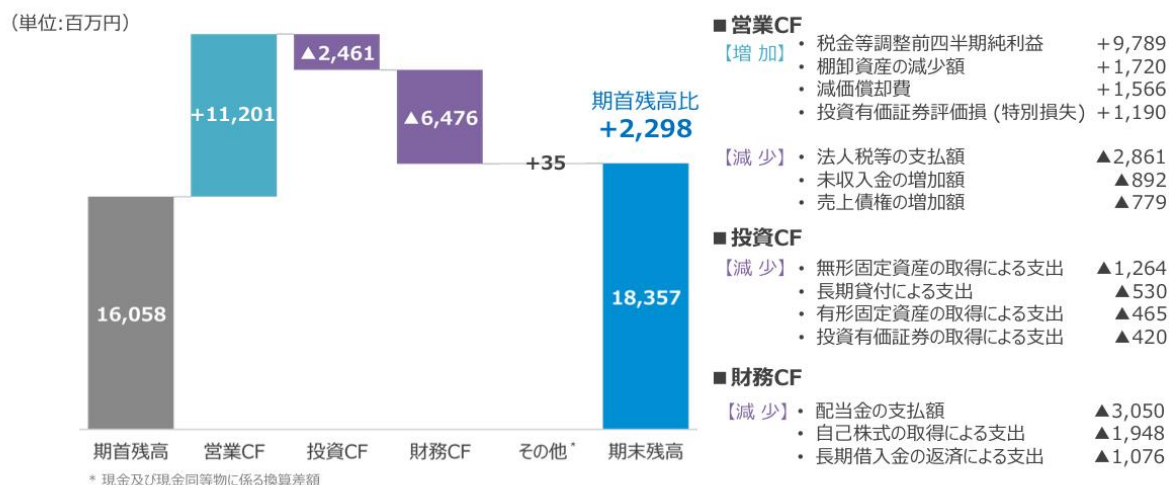
純資産といたしましては、それ以外に前期自己株式の取得を行っていること、あとは利益剰余金の増加です。これらがございまして 545 億から 2023 年 3 月末で 561 億と、自己資本比率で 74.5% から 75.3% へ上昇しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2023/3期 連結キャッシュフロー（通期）

✓ 現金及び現金同等物は、期首残高から2,298百万円増加



8

続いて、8 ページキャッシュフローでございます。

期首残高としては160億、これに対しまして営業キャッシュフロー、プラスで112億、投資キャッシュフローが24億の支出、財務キャッシュが64億という形で、先ほど申し上げましたように必要な資金、しっかりキャッシュフローなど賄って、なお前期首に比べて23億ほど現金残高としては増加したというような形になっております。

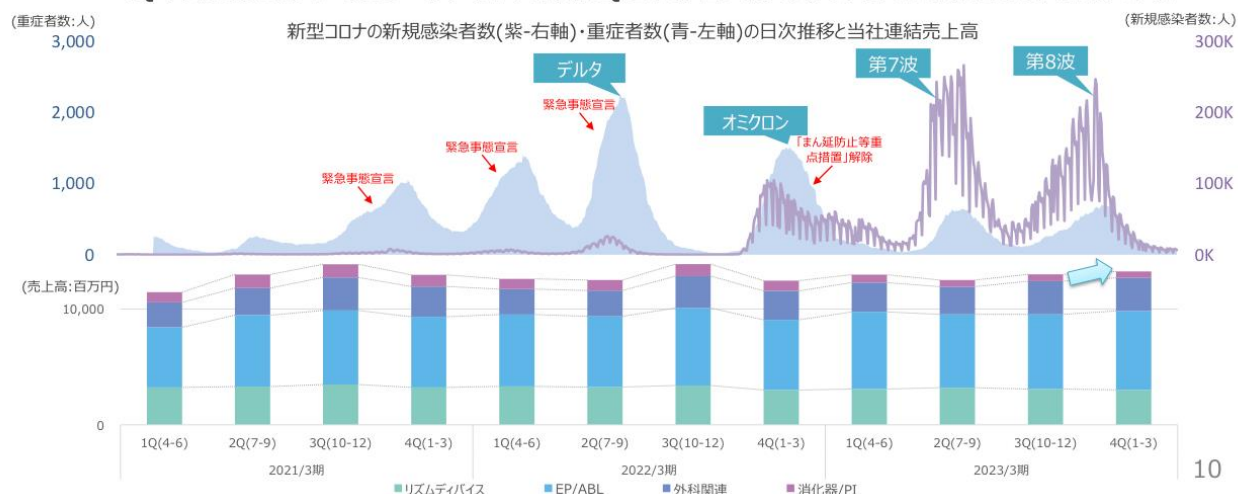
続いて9 ページ、ここからは品目別の売上高でございます。

9 ページ目は、ここまでに申し上げたことと重複いたしますので、割愛させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

- ✓ 1Q：オミクロン型の感染が一服し、行動制限緩和。症例数の大幅増とともに売上増加
- ✓ 2Q：BA5型の感染が急拡大し、7月下旬～8月にかけて症例数が大幅減。9月には沈静化
- ✓ 3Q：10月以降、感染再拡大。ただし、コロナが症例数を抑制する傾向には一定の歯止め
- ✓ 4Q：感染は1月中旬にピークアウト。前期4Qはオミクロン拡大期で、前年同期比では大幅な増収



10 ページ目、こちら第1四半期から各四半期ごとに、コロナが売上にどのような影響があったのかというところをご説明しております。

通期で見ますと、やはり第7波、第8波というコロナの波ございましたので、その影響はやはり症例数の減、イコール売上高に対する減少要因として影響しております。

しかしながら、第4四半期見ていただきますと、こちらにも記載しております通り、1月中旬以降、コロナの影響っていうのは非常に限定的になっております。第4四半期3カ月の前年比較で見ますと、前年はオミクロンの拡大ということございましたので、第4四半期だけの比較でいくと、大幅な増収ということになっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

ペースメーカーの保険償還価下落や競争激化の影響が厳しく減収

- ① 保険償還価格の下落や他社の新製品等の影響を受け大幅な減収
- ② T-ICDは電池交換に伴う交換症例を多く獲得。S-ICDやCRT-Dは堅調に推移し増収
- ③ AEDは販売・レンタルともに堅調に推移

(単位:百万円)	2023/3期			2022/3期	2023/3期			2022/3期
	通期実績	YoY	%	通期実績	1-3月実績	YoY	%	1-3月実績
① ペースメーカー関連	4,938	▲923	▲15.8	5,862	1,189	▲86	▲6.7	1,275
② ICD関連	7,090	+305	+4.5	6,785	1,725	+74	+4.5	1,651
③ その他*	374	+44	+13.5	329	106	+29	+37.8	77
リズムデバイス 計	12,403	▲574	▲4.4	12,977	3,022	+18	+0.6	3,004

* AED、舌下神経電気刺激装置等を含む

11

続いて、11 ページ、ここからは品目別の詳細でございます。まずリズムデバイスになります。

リズムデバイスのうち、まずペースメーカー関連、こちらはやはり保険償還価格の下落、この影響がまず大きく出ております。

それから、リードレスペースメーカーと競合製品の影響、これらも大きく出ておりまして、ペースメーカー関連だけで見ますと、前期比 15.8%のマイナスとなっております。

一方、ICD 関連ですけれども、こちらは T-ICD、こちらしっかり交換症例を獲得できたということ、また S-ICD ですとか CRT-D に関しましても非常に堅調に推移したということで、前期比 4.5%増の増収となっております。

その他につきましては、ほぼほぼ AED になりますけれども、販売・レンタルともに堅調に推移しております。

リズムデバイス全体といたしましては、やはりちょっとペースメーカー連のマイナス影響がございましたので、前期比 4.4%の減収という形で終わりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

AF症例数の増加や他社製品の供給問題等により販売は堅調に推移

- ① AF症例数は通期で**前期比6%程度増加**、1-3月では**前年同期比10%程度増加**と推定
新型コロナの影響軽減に加え他社製品の供給問題等もあり販売数量が大きく伸長
- ② HeartLight X3は、商品供給問題が断続的に発生し販売制限が継続
- ③ スティールブルシース、RF Needleは堅調に推移

(単位:百万円)	2023/3期			2022/3期	2023/3期			2022/3期
	通期実績	YoY	%	通期実績	1-3月実績	YoY	%	1-3月実績
① EPカテーテル	19,654	+1,242	+6.8	18,412	5,043	+520	+11.5	4,522
② ABLカテーテル	1,011	▲220	▲17.9	1,232	242	▲57	▲19.1	299
③ その他*	5,626	+171	+3.1	5,455	1,532	+284	+22.8	1,247
EP/アブレーション 計	26,292	+1,193	+4.8	25,099	6,818	+748	+12.3	6,070

* スティールブルシース、RF Needle等を含む

12

続いて、EP/アブレーションでございます。

EP/アブレーションは、全体的に AF 症例への増加というところがプラスには寄与しております。通期で見ますと、前期比 6%程度の増加ではございますけれども、特に第 4 四半期の 3 カ月だけ見ますと、前年同期でやはり 10%程度増加しているのではないかなと見ております。

このような背景の中、EP カテーテルにおきましては、コロナの影響が軽減されたということに加えて、やはり他社製品も、世界的な部材不足等によりまして、国内でも供給の制限等ありました。そういったのが当社にとっては寄与した部分もございまして、EP カテーテルとしては、前期比 6.8%の増収という形で、比較的伸びが大きくなりました。

それから続いて、ABL カテーテルです。こちらは主力の HeartLight X3、販売に力を入れておったんですけれども、やはり商品の供給問題が断続的に発生しておりまして、結果的に販売を制限せざるを得ないような状況が生じております。

それを受けまして、ABL カテーテル前期比 17.9%と、マイナス幅が大きくなっております。

その他に関しましては、スティールブルシースですとか RF Needle というのも含まれておりますけれども、こちらも前期比 3.1%増ということで堅調に推移いたしました。

トータル、EP/アブレーション全体といたしましては、前年同期比 4.8%の増収という形で終わっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

人工血管や塞栓用コイルが大きく伸長

- ① 人工血管は堅調に推移、オープンステントグラフトは緊急症例の増加に伴い増収
腹部用ステントグラフトはAFX2と相乗効果のある新商品Altoが伸長し大幅な増収
- ② 塞栓用コイルAvenirの販売が好調に推移し、前期に事業譲渡した血液浄化関連の売上 (253M)
があるも増収

(単位:百万円)	2023/3期			2022/3期	2023/3期			2022/3期
	通期実績	YoY	%	通期実績	1-3月実績	YoY	%	1-3月実績
① 人工血管関連	10,353	+982	+10.5	9,370	2,744	+268	+10.9	2,475
② その他*	289	+2	+1.0	286	115	+94	+443.5	21
外科関連 計	10,643	+985	+10.2	9,657	2,860	+362	+14.5	2,497

* 塞栓用コイル、血液浄化関連、人工肺関連、生体弁等を含む

13

続いて 13 ページ外科関連にまいります。人工血管関連です。

こちらは人工血管は非常に堅調に推移しておりまして、これ自社製品、オンリーワン製品でございますオープンステントグラフト、こちら緊急症例が増加した、それに伴いまして増収となっております。

それからまた、仕入れ商品になりますけども、ステントグラフト、腹部用のステントグラフト、AFX2、こちら新商品の Alto という製品出まして、両者のシナジー効果が出たということで、こちら大幅な増収となっております。

従いまして、人工血管関連は前年同期比で 10.5%増と、非常に好調に推移しております。

その他です。その他主たる製品としては塞栓用コイルでございます。腹部領域から販売ははじめまして、現状は脳血管の領域でも販売を行っております。こちらのコイル Avenir の方が非常に好調に推移しております。

しかしながら、これ前期比で見ますと、ほぼ前期並みということなんですけども。前期は血液浄化関連、これも既に事業譲渡してましますけれども、こちらの売上が 2 億 5,000 万円ほど入っておりますので、単純な前期比としては、ほぼ前期並みという形になっております。

トータル外科関連といたしましては、前期比 10.2%増ということで、こちらも非常に堅調に推移をいたしました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

PI領域から消化器領域への事業構造の転換が進む

- ① 消化器関連は、肝臓治療用ラジオ波焼灼電極針等の既存製品の販売が好調に推移し大幅な増収
胆膵領域では胆管用チューブステントの臨床評価が高く好調に推移
- ② PI関連は、Orsiro等の販売縮小と販売リソースの消化器関連への転換により大幅な減収

(単位:百万円)	2023/3期			2022/3期	2023/3期			2022/3期
	通期実績	YoY	%	通期実績	1-3月実績	YoY	%	1-3月実績
① 消化器関連	645	+197	+44.2	448	191	+54	+40.3	136
② PI関連*	1,765	▲1,520	▲46.3	3,285	359	▲391	▲52.2	750
消化器/PI 計	2,411	▲1,322	▲35.4	3,733	550	▲336	▲37.9	887

* Percutaneous Intervention (経皮的インターベンション)に関連する医療機器を取り扱う領域
薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro」のほか、血管内圧測定用センサ付ガイドワイヤー、ガイドワイヤー、バルーンカテーテル、心房中隔欠損閉鎖器具等を含む

14

続いて最後、これ消化器/PI となります。

消化器関連ですけれども、消化器関連におきましては、まず従来より販売してました肝臓治療用のラジオ波焼灼電極針アルファでございますけれども、こういった既存製品が非常に好調に推移いたしました。

それから新たに参入いたしました胆膵領域、こちら一部製品ちょっと改良の要否と判断しておりますけれども、胆管用チューブステントですとか、そういったものが非常に臨床上の評価が高く、好調に推移したということがございます。

従いまして、消化器関連 44.2%と、伸び率としては非常に高くなっております。

それから最後、PI 関連です。こちらはコロナリー・インターベンション、心臓周りのインターベンション、Orsiro を中心に販売縮小という部分の影響が大きく出ておりまして、前期比 46.3%減と、非常に大きなマイナス幅となっております。

消化器/PI 関連全体といたしましては、前期比 35.4%の減収となっております。

以上、私からのご説明は以上でございます。ありがとうございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2024/3期 連結業績予想（通期）

通期 損益予想	売上高		営業利益		当期純利益	
	48,807 百万円	YoY ▲2,943 (▲5.7%)	9,763 百万円	YoY ▲1,073 (▲9.9%)	6,854 百万円	YoY ▲37 (▲0.5%)
✓ Baylis社製品の商流変更およびコロナリー・インターベンション（以下CI）事業の縮小の影響が大きく 減収 の見通し ✓ 人件費、IT関連費等の販管費の増加により 営業減益 を見込むが、営業利益率20%は維持 ✓ 当期純利益は前期並みを想定						
品目別売上高 予想	リズムデバイス YoY +0.2%			EP/アブレーション YoY ▲10.9%		
	➡ (+) S-ICDやCRT-Dが堅調 (-) 市場競争の激化			➡ (+) AF症例数の増加 (+6%) (-) Baylis社製品の商流変更		
	心血管関連*1 YoY +6.5%			消化器*2 YoY ▲39.6%		
	➡ (+) 人工血管関連が堅調 (+) 新商品の発売			➡ (+) 既存品の改良モデルの投入 (-) CI事業の縮小		

* 2024/3期より売上集計区分の組替を行っております（組替詳細はP34）

*1 前期まで外科関連と表記しておりましたが、当期より心血管関連と改称しております

*2 前記まで消化器/PIと表記しておりましたが、当期より消化器と改称しております

16

鈴木厚宏：副社長の鈴木でございます。引き続きまして、私の方から、今進行期の計画についてご説明申し上げます。お願いします。

まず1ページ目は、今期のサマリーになっております。

トップライン、売上高は488億700万ということで、やはり前期に比べまして、5.7%のダウン、29億4,300万でございますが、どうしてもBaylis社製品の販売契約が終了いたしましたことと、それからトップラインに与える影響としましては、コロナリー・インターベンションの部分です。これも徐々に収束に向かっておりますので、この部分が大きいかなというふうに考えております。

その結果、営業利益といたしましては、97億6,300、ここもトップラインがやはり下がるということと、販管費につきましてはIT関連費用等、それから人件費等、やはり増えていきますので、減益ということにはなりますけれども、97億6,300と。

そして、当期純利益はほぼ前年並みだということでございます。

次に、品目別の売上の予想でございますが、1点だけまずご説明申し上げますと、左の下の心血管関連、これ従来、外科関連とわれわれの方ではいってございましたけれども、今進行期から、心血管関連ということで、心臓血管関連商品と脳血管、ここに入るということになります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

それから、消化器/PIでご紹介しておりましたが、今後は消化器ということで、ほぼコロナリー・インターベンション系のビジネスは、縮小といいますか収束に向かっていきますので、今後は消化器ということでご説明申し上げます。

まず最初に、リズムデバイス、ここにはプラス要因、マイナス要因ありますけども、ほぼ現状を維持していくと。まだ新たな製品の導入がすぐ見込まれませんので、ここは市場をキープしていく。

それから、EP/アブレーション、全体の金額といたしましては、やはり RF Needle、40 億ぐらいございましたので、そこがなくなる。いわゆる販売パートナーシップ契約に移りますので、販売手数料のみの入りとなりますので、ここが大幅に下がりますが、個々の製品は、やはり AF の市場の伸び等を考えまして、伸びる製品は多々ございます。

それから心血管関連、当社の不整脈と並ぶもう一つの大きな柱であります人工血管関連です。オープンステントグラフト、ステントグラフト、人工血管、ここは堅調に推移していきますので、まだまだここは伸ばしていけるはずだと。

それから新商品と書いてございますが、ここが脳血管関連でございます。今期ももう既に一つ導入いたしましたし、二つ新商品を導入する予定になっております。

そして最後に消化器。ここは先ほど来申し上げましたように、薬剤溶出型冠動脈ステントです。コロナリーのステントがやはり非常に大きい売上金額でございました。利益の方は、そんなに大きな貢献はなかったのですが、廃棄等ございまして、その分のマイナスがやはり大きいという。

一方で消化器に関しましては、まだちょっと胆膵関連の大きな導入は見込んでおりませんが、肝癌アブレーション、それから胃・十二指腸ステント、大腸ステント、そこにプラスして昨年、胆管のチューブステントが非常に好調に推移しておりますので、ここで伸ばしていきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2024/3期 連結業績予想（通期）

✓ 前期比で減収、営業減益の見通し。当期純利益は前期並みを想定

(単位:百万円)	2024/3期			2023/3期
	通期予想	YoY	%	通期実績
売上高	48,807	▲2,943	▲5.7	51,750
売上総利益	29,691	▲203	▲0.7	29,895
構成比	60.8%			57.8%
販管費	19,927	+870	+4.6	19,057
構成比	40.8%			36.8%
営業利益	9,763	▲1,073	▲9.9	10,837
構成比	20.0%			20.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,854	▲37	▲0.5	6,891
構成比	14.0%			13.3%
自社製品比率	60.4%			54.9%

売上高 YoY ▲5.7% 減収

(+) 新型コロナ沈静化に伴う症例数の回復
(-) Baylis社製品の商流変更およびCI事業の縮小

営業利益 YoY ▲9.9% 減益

(+) 自社製品比率の上昇 (+5.5pt)やBaylis社製品の
商流変更に伴う売上総利益率の改善
(+) 在庫の廃棄損・評価損の減少 (▲295M)
(-) 人件費の増加 (ベースアップ等)
(-) IT関連費、営業活動費の増加

当期純利益 YoY ▲0.5% 減益

(+) 前期に投資有価証券評価損 (特別損失) を計上
(1,190M)

17

連結の業績予想です。

先ほどご説明しましたように売上高 488 億と。プラス要因、マイナス要因、ここに書いてある通りで、先ほど私が説明した通りでございますが、全体的な症例の回復、コロナが沈静化では見込んでおります。

売上総利益です。ここが前期 57.8%だったのがさらに良くなって 60.8%、やはりここは、一番下の自社製品比率がさらに伸びるということと、60.4%まで伸びるということと、その分の利益貢献が大きい。

それから、先ほど来申し上げましたように、廃棄損の関係です。どうしても Orsiro の関係の廃棄損が多くございましたので、さらにそこがなくなりますので、60.8%の売上総利益まで上がっていきます。

そして、営業利益がここは 97 億 6,300 万ということで、前期から比べますと、減収ということになりますけれども、営業利益率としては 20%を維持したいと考えております。

そして最終的に、当期純利益です。68 億 5,400 ということで、14%を予定しております。

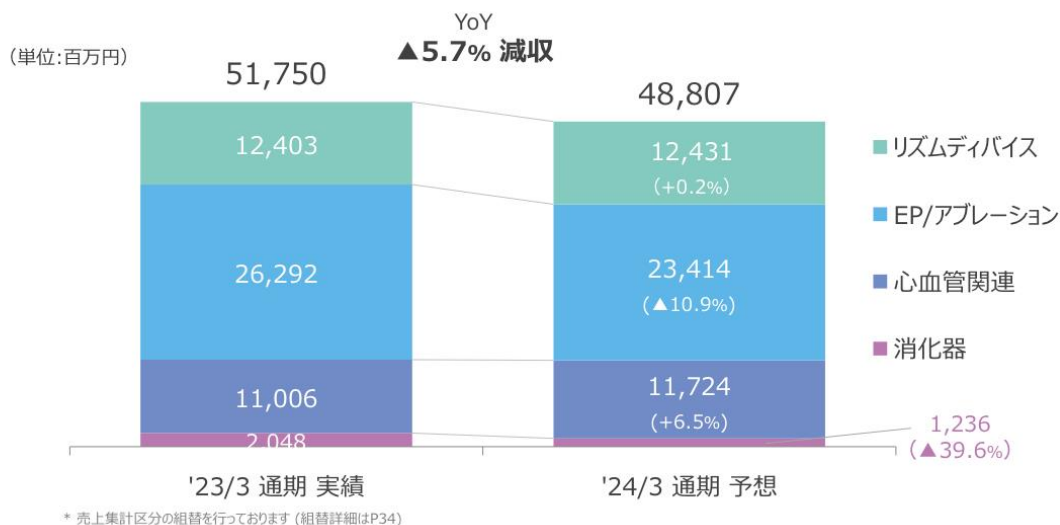
これが、品目別の売上高、先ほど説明しましたので、やはりここでは、EP の部分が先ほど来説明してる Baylis の部分がなくなるので大きいなというところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2024/3期 品目別売上高（通期）

- ✓ EP/アブレーションはBaylis社製品の商流変更、消化器はCI事業の縮小の影響が大きく減収の見通し
- ✓ 心血管関連は、脳血管関連での堅調な販売や新商品の発売により増収の見通し



18

このページは、既存事業の見直しと収益基盤の拡充ということで、現在私どもでやっているビジネスの終了している部分と新規の部分、それから変更している部分があるので、ここでご説明しております。

2024/3期 既存事業の見直しと収益基盤の拡充

	区 分	主な製品・事業	状 況
終 了	リズムデバイス	舌下神経電気刺激装置「Inspire UAS」	独占販売契約の終了 ('23/3)
	CI関連	CI関連製品「Orsiro」、「Optowire」等	事業の縮小
	EP/アブレーション	Baylis社製品「RF Needle」、「SUREFLEX」等	独占販売契約の終了 ('23/3)
変 更	EP/アブレーション	Baylis社製品販売手数料	販売パートナーシップ契約* ('23/4)
新 規	人工血管関連	オープンステントグラフト「FROZENIX 4 Branched」、「FROZENIX Partial ET」	4 Branched ('23/1 発売済) Partial ET ('24/3期 1H 発売予定)
	脳血管関連	血栓吸引カテーテル「ESPERANCE」 マイクロカテーテル「pNOVUS」	ESPERANCE ('23/5 発売) pNOVUS ('24/3期 1H 発売予定)

* Boston Scientific Japanと締結 (2025年12月末まで)。協業施設におけるBaylis社製品の販売実績に応じて当社が販売手数料を受領

19

リズムデバイスの方では、舌下神経電気刺激装置、これ要するに睡眠時無呼吸症候群のデバイスで、2年前に日本にはじめて導入いたしました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

やはり非常に、当社 2 年ぐらいやっていますけど、やっぱり 10 台ぐらいしか植込みがなくなって、市場開拓が大変だということと、やはり先方との契約の中で、なかなか事業を継続して利益を生んでいくという観点で考えますと、難しいということで、これは 2023 年の 3 月に販売契約を終了しております。

それから CI 関連です。コロナリー・インターベンションは先ほど来ご説明申し上げている通り、縮小方向に向かっていきます。

それから EP/アブレーションこれも同様です。Baylis 関係の製品、これが独占販売契約が終了します。その下に変更と書いてありますが、当社は販売契約が終了しますが、販売パートナーシップ契約といわれる契約を結んで、ボストンサイエンティフィック・ジャパンさんと当社で、この RF Needle、SUREFLEX を販売のパートナーとして継続していきますが、販売手数料をもらうという契約になっております。

それから今度は新規です。人工血管関連は当社の大きなオンリーワン製品であります、オープンステントグラフト。

ここにさらに新たなモデルを追加して、FROZENIX 4 Branched と、従来のオープンステントグラフトに、これまた従来持っておりました 4 分岐管という人工血管があります、それをもう事前にくっ付けた商品です。これを導入することによって、非常に手術の時間の短縮が見込まれるということとを予想しております。

それから、FROZENIX の Partial ET、エレファントトランクの略ですが、従来のステントグラフトの一番下の方に人工血管を数センチ足してるんです。それを持つことによって、いわゆる合併症というか、その予防にもなりますし、新たな乖離の分野にも入っていけるんじゃないかなと考えております。

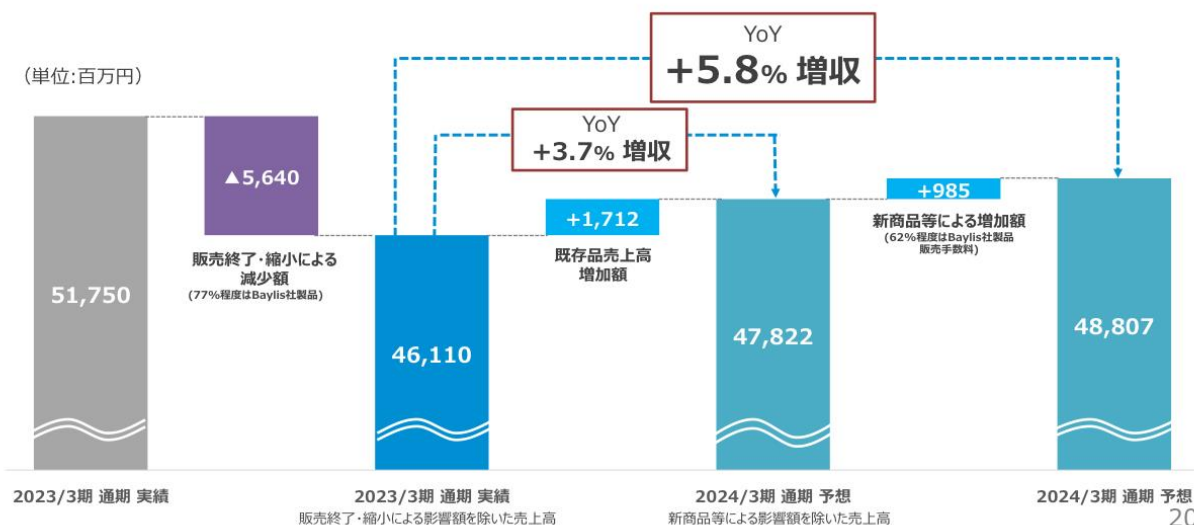
そして最後は、脳血管関連、血栓吸引カテーテルの ESPERANCE といいますが、これはもうこの 5 月から上昇開始いたしました。それからもう 1 個、マイクロカテーテル、これも今期中の導入を予定しております。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

2024/3期 売上高の増減と実質的成長率

- ✓ 販売終了・縮小を除いた売上高ベースで前期比**3.7%増収**、新商品等を含めた売上高ベースで**5.8%増収**の見通し
- ✓ 2024/3期を底とし、2025/3期以降は着実な売上成長を見込む



次のページは、売上高の増減と実績成長率。

先ほど来申し上げましたように、前期が517億5,000万に対して、ここのマイナス56億4,000万というのが、いわゆる契約等がなくなって販売を終了するもの、これで56億4,000万のマイナスですが、そうしますと残りが461億1,000万、あるわけですが、まずその部分で既存品で売上高を伸ばす部分で3.7%増やす、金額にして17億1,200万。

さらにそこに、新たな製品商品加えたことによって、最終的に488億。その部分の増収分としては5.8%の増収だということの説明になります。

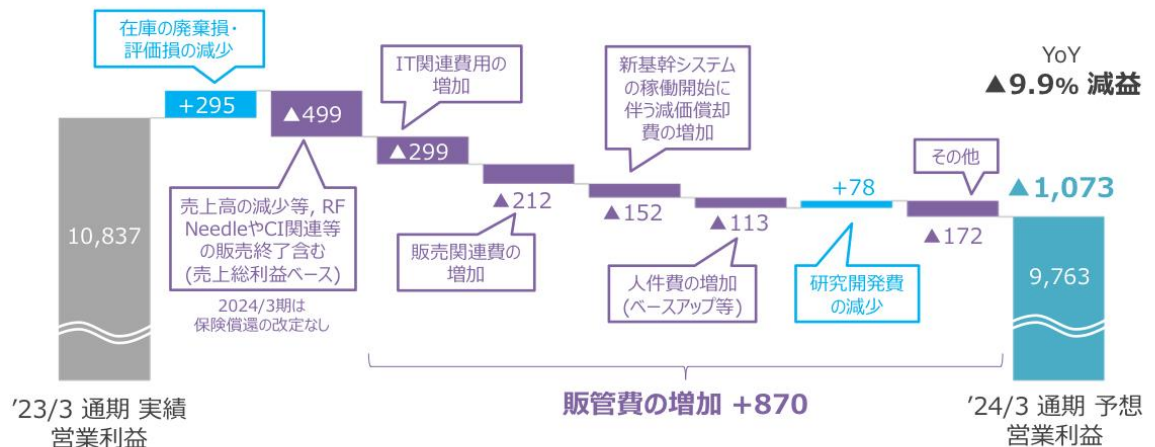
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2024/3期 連結営業利益 増減分析 (通期)

✓ 販売終了品の大幅な減収に加え、販管費の増加により**営業減益**を見込む

(単位:百万円)



21

次は連結営業利益の増減の分析です。

前期 108 億 3,700 万、これに対しまして、プラス要因としては先ほどからご説明しましたように、廃棄損です。在庫の廃棄損、評価損の減少があると、これが約 3 億弱。

それから、全体的に売上が落ちますので、その分の営業利益に響く部分が約 5 億、そして今期から特に IT 関連費用が増加しております。

その部分で 3 億、そして販売関連、これは通常の販売関連費用でございますが、ここで 2 億、そして基幹システム、IT プラス新基幹システムを導入いたしますので、その部分で 1 億 5,000 万、それから、人件費の全体的なベースアップを含めまして、1 億 1,300 万増えると。

そして最後に、研究費は前期に比べて、若干ちょっと下がるということでプラス要因となりますけれども、その結果、全体としては 10 億 7,300、減ることになりまして、97 億 6,300 の営業利益を計画しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

他社との競争激化のなか、シェアの維持を目指す

- ① ペースメーカー関連は、他社の新製品等の影響があり横ばいの見込み
- ② T-ICDは交換症例のピークが過ぎ減収となるも、S-ICDやCRT-Dは堅調に推移する見通し

(単位:百万円)	2024/3期			2023/3期
	通期予想	YoY	%	通期実績
① ペースメカ関連	5,011	+32	+0.6	4,979
② ICD関連	7,057	+7	+0.1	7,049
③ その他* ¹	361	▲12	▲3.2	374
リズムデバイス 計	12,431	+27	+0.2	12,403

* 売上集計分の組替を行っております (組替詳細はP34)

*1 AED、舌下神経電気刺激装置等を含む

22

事業領域ごとの説明になります。まずリズムデバイスです。

ペースメカ関連に関しましては、新商品出ておりませんが、ほぼ横ばいでキープしていけるだろうと。

それから、2 番目の T-ICD です。これも交換が前期かなりピークのところ来たので若干下がるかもしれませんが、S-ICD と CRT-D は堅調に推移していくということで、ここにございますようにペースメカ関連で 50 億、ICD 関連で 70 億強。

それから一番下のその他がこれは AED 関連になりますけども、ほぼ前期並みということで 124 億 3,100 万の計画となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

Baylis社製品の商流変更により大幅な減収を見込む

- ① AF症例数は前期比6%程度増加の見込み
EPカテーテルは堅調な推移を予想、BeeATはラインナップを拡充し更なる拡販を目指す
- ② HeartLight X3は、商品供給問題が継続、販売への一定の影響が残る見通し
- ③ Baylis社製品は2023年3月末に独占販売を終了。4月以降は、BSJ社^{*1}との販売パートナーシップ契約のもと、商流変更に伴い販売手数料を受領する想定も大幅な減収となる見通し

(単位:百万円)	2024/3期			2023/3期
	通期予想	YoY	%	通期実績
① EPカテーテル	20,493	+838	+4.3	19,654
② ABLカテーテル	976	▲34	▲3.4	1,011
③ その他 ^{*2}	1,944	▲3,682	▲65.4	5,626
EP/アブレーション 計	23,414	▲2,878	▲10.9	26,292

^{*1} Boston Scientific Japan
^{*2} スティールラブルシース、Baylis社製品等を含む

23

EP/アブレーション分野でございます。

Baylis の件がありまして、減収にはなりますけれども、基本となる AF 症例、市場の伸びは 6% ぐらいを当社としては予想しております。従いまして、それに伴う EP カテーテルは堅調に推移するでしょうし、BeeAT に関しましても、新たなモデルを追加したりして、ここもさらに伸ばしていきたいと考えております。

それから、HeartLight X3、これは前期と同様今期も、やはり商品供給の問題がございまして、限定的な計画を立てざるを得ないということございまして、若干、前期よりも減るかなというところでございます。

以上の結果、EP カテーテル、ここは主に自社品になりますけれども、4.3%のプラス、8 億 3,800 万伸ばして、ABL カテーテル、ここは今言いました HeartLight X3 の部分でございますので、前期より若干減る計画にならざるを得ない。

それから一番最後、その他、ここに Baylis の RF Needle 関係が入っておりましたので、ここは大幅に減収になりますが、自社品のスティールラブルシースのカテーテル等々で、まだまだ、ここも伸ばしていけるところでございますので、その結果、今期の計画としましては 234 億 1,400 万、前年比で 10.9%マイナス、このような計画になっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

人工血管関連は堅調、脳血管関連は新商品を導入予定

- ① 腹部用ステントグラフトは引き続き安定的な成長を見込む
オープンステントグラフトはラインナップを増やし、医師のニーズに応える
- ② 塞栓用コイルは、取扱施設の拡大、ラインナップ拡充により販売数量を伸ばす見通し
血栓吸引カテーテル等、脳梗塞治療領域における重要な新商品を複数投入予定

(単位:百万円)	2024/3期			2023/3期
	通期予想	YoY	%	通期実績
① 人工血管関連	10,681	+328	+3.2	10,353
② 脳血管関連	622	+392	+170.6	230
③ その他*	421	▲1	▲0.4	423
心血管関連 計	11,724	+718	+6.5	11,006

* 売上集計区分の組替を行っています(組替詳細はP34)

* 心房中隔欠損閉鎖器具、人工肺関連、生体弁等を含む

24

続きまして、心血管関連です。

人工血管関連は本当に堅調に、この分野、当社がシェアナンバーワン持っているところでございますので、引き続き、腹部用のステントグラフトとオープンステントグラフト、それから従来の人工血管が堅調に伸びていくということを予定しております。

それから、2番目が塞栓用コイル、その他です。ここは脳血管領域と考えていただければいいかなと思いますが、ここもまだ前期は2億3,000万でございましたが、新たな製品が入る、そしてコイル関係も伸ばすという計画になっておりまして、6億2,200万の計画になっております。

トータルといたしまして、117億2,400万の計画でございまして、前期比6.5%アップの約7億2,000万のプラスの計画をしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

消化器関連の拡充と胆膵関連の拡販へ

- ① 消化器関連は、大腸用ステント、胃・十二指腸用ステントにおいて改良モデルを投入し販売を促進
胆膵関連は、胆管用チューブステントを中心にシェアの拡大に努める
- ② CI関連の一部製品の販売が残るが、事業縮小へ

(単位:百万円)	2024/3期			2023/3期
	通期予想	YoY	%	通期実績
① 消化器関連	1,125	+471	+72.1	654
② その他*	111	▲1,282	▲92.0	1,394
消化器 計	1,236	▲811	▲39.6	2,048

* 売上集計区分の組替を行っています (組替詳細はP34)

* 薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro」のほか、ガイドワイヤー、バルーンカテーテル、血管内圧測定用センサ付ガイドワイヤー等を含む

25

最後、消化器関連。

弊社の消化器関連も従来大腸用のステント、それから胃・十二指腸用のステント、そして肝癌アブレーションを持っておりました。

そこに胆膵系の商品ということで、昨年度前期、胆管用チューブステント、これ結構好評でございまして、いい製品、これ自社品でございしますが、ここの部分がありますので、ここの部分で消化器関連は前期の6億5,400万円、今期の計画は11億2,500万ということで。

胆道鏡については、大きなちょっと計画を入れる状況にはまだなっておりませんで、これらの製品で、ここの数字を計画していきたい。

それから、その他は、コロナリー・インターベンションで使った Orsiro の関係が一番大きい、ございしますので、今年度は1億ちょっとという計画でございます。

トータルといたしまして、前年が20億4,800万でございましたが、今年度、今期は12億3,600万ということで計画をしております。

では、ここから残り3枚は、また常務の山田と交代させていただきます。ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

- ✓ 設備投資額：2024/3期 新基幹システムの運用開始等
- ✓ 減価償却費：2024/3期 償却方法の変更「定率法→定額法」(－)、基幹システムの償却等(＋)

(単位：百万円)	2020/3期	2021/3期*1	2022/3期	2023/3期*2	2024/3期 (予想)*3
設備投資額	2,536	1,382	1,633	976	3,128
減価償却費	1,264	1,525	1,611	1,566	1,603
研究開発費	1,743	1,667	2,159	2,316	2,238
期末従業員数 連結	1,074	1,167	1,205	1,166	1,229
(名) 単体	995	995	984	962	993

*1 2021/3期より、JLLマレーシア社を新規連結

*2 2023/3期末に、子会社の心宜医療器械(深圳)有限公司(JLL Shenzhen Co., Ltd.)を売却

*3 2024/3期より、減価償却方法を定額法に統一

26

山田：ではここは残り、私よりご説明させていただきます。

まずこのページ、設備投資等の2024年3月期の見込みとなっております。

設備投資に関しましては31億ということで、過去と比べましても非常に大きな金額となっておりますけれども、この理由といたしましては、現状、当社は基幹システムの入替えを進めておりまして、2024年3月期に稼働する予定でございます。

実際キャッシュとしては、2023年3月期から支出されておりますけれども、こちら建設仮勘定ということで計上されておまして、稼働する2024年3月期に設備投資として認識するということで金額大きくなっております。

一方で、ちょっと設備投資2023年3月期の金額が10億切る水準ということで、若干低い水準となっておりますけれども、これ元々、先ほどありましたHeartLightのX3のコンソール、機械装置、そういったものの導入が行われなかったことであったり、製造開発関連の装置、機械も、そういったものの導入が遅れてるということで、投資額としては10億切る水準となっております。

それから、減価償却費です。こちらに関しましては、先ほど申し上げました基幹システムの償却が開始されますと、その部分が毎年、年間で、おそらく1億5,000万～6,000万ぐらいプラスで乗ってくる。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

一方、償却方法を定率法から定額法に 2024 年 3 月期より変更してしますので、その部分の影響としては約 2 億ぐらい逆にマイナスの影響がございます。

このページにつきましては以上でございます。

2024/3期 配当予想

✓ 2024/3期の配当は、前期と同額の1株当たり38円を予想



27

続いて、配当でございます。

配当につきましては、従来当社安定配当ということをも第一としてきました。安定配当ということで金額を維持していくということとともに、配当性向、これ従来は 30%というのを一つの目安としておりましたけれども、2022 年 3 月期より、これを 40%を一つの基準としております。

2024 年 3 月期、配当額としては前期と同じ 1 株当たり 38 円、配当性向としては 42.6%、こちらの配当を現状予定しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

✓ 2023/5/10開催の取締役会にて、自己株式の取得及び消却に関する事項を決定

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| • 取得する株式の種類 | 普通株式 |
| • 取得する株式の総数 | 300万株 (上限)
発行済株式(自己株式除く)の3.9% |
| • 取得する株式の総額 | 40億円 (上限) |
| • 取得する期間 | 2023/5/11から2024/2/29 |
| • 取得する方法 | 東京証券取引所における市場買付
(証券会社による取引一任方式) |
| • 消却する株式の種類 | 普通株式 |
| • 消却する株式の総数 | 上記自己株式の取得後、発行済株式の
1.0%を超過した株式数 |
| • 消却予定日 | 2024/3/15 |

28

株主還元策としては、配当と続いて、自己株式の取得、こちらを昨日決議してリリースさせていただいております。

内容といたしましては、取得する株式数、これ上限で 300 万株、金額として 40 億円、取得期間としては本日から取得開始しておりまして、2024 年 2 月末までという形で、これ 300 万株買うか、もしくは 40 億円、もしくは期間、いずれかにヒットしたところでこの自己株の取得は終了となります。

自己株の消却ですけれども、こちらに関しては当社新たに発行済株式数の 1%程度保有すると、現状 8200 万株発行済ございますので、82 万株を上限に自己株を保有すると。

従いまして、それを超過する部分に関しては、原則として消却するという方針を決めましたので、既存の自己株式数が約 499 万株、今回これ 300 万株、仮に買い切った場合、717 万株ほど消却するという計画でございます。

消却予定日は買付期間いっぱい、2 月末まで使った場合は 3 月中旬を予定しておりますし、買付が早く終了すれば、この消却日も早くなるということで考えております。

私からは以上でございます。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

質疑応答

司会 [M]：それでは質疑応答に入りたいと思います。

まずはじめに、会場にご参加されている方からご質問をお受けしたいと思います。その後、オンラインで参加される方のご質問をお受けいたします。

なお、質問につきましては、お一人様 1 回につき 2 問までとさせていただきます。それでは質疑応答を開始いたします。

大和証券、山崎様、お願いいたします。

山崎 [Q]：大和証券の山崎です。よろしくお願いします。まず 1 点目が EP カテーテルのところに
ついてです。

終わった期は、他社製品が世界的な部材の不足で供給制限を受けているということでしたけれども、この影響は今期はどれくらいをご想定されているのかというところと。あと、今期のこの AF 症例のご計画、前同比プラス 6%程度想定されてると思うんですけども。

その他社の供給制限ですとか、あるいは前期に、コロナが 7 波、8 波と流行ったことを考えると、ちょっと保守的なのかなという気もするんですけども、そのプラスを抑えるくらい、医師の働き方改革の影響なんかが効いてくるという理解でよろしいのかというところを確認させてください。

鈴木厚宏 [A]：ちょっと最初の質問聞きづらかったので、2 番目の質問から答えさせていただきますけども。

一応 6%、ちょっとコンサバじゃないかという意見ですけども、やはり医師の働き方改革もござ
いますし、施設数がそんなに多く伸びていかないであろうということを考えますと、やはりデイリ
ーでこなせる症例って限界あると思うんです。

なので、ここは 6%をちょっと前期の第 4 と第 4 で、前年、前々年ですか、そこを比べるとやはり
ちょっとコロナの時期があるので、10%いったかもしれませんけども、6%ぐらいが妥当ではない
かなと、われわれとしては考えております。

すいません、1 番目の質問、ちょっと聞きづらくて申し訳ないです。

山崎 [Q]：終わった期にあった、他社様の製品が供給不足になっていたところに関しまして、今期
については、その影響がどれくらい入っているのかなということで。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

鈴木厚宏 [A]：先ほど私説明しましたように、今期いっぱいはいわゆる供給、特に X3 のところで
すか。

山崎 [M]：カテーテルの。

鈴木厚宏 [A]：うちのカテーテルに関しましては、やはり国内で、もちろん海外の工場もございま
すが、今のところ国内調達で部材やってます。もちろん海外からもあるんですけども、そこまで大
きな影響があるという状況は聞いておりません。

鈴木啓介 [A]：1 点、これ大きな問題なんですけど、業界全体に。ゼウスっていう PTFE の会社の
供給が滞っているんです。ですからメジャーの J&J、アボットも、全会社がこれ困っちゃってるん
です。

ですから、私のところも仕入れ品で困っているんですけど、自社製品に関してはここの PTFE の部
分を国内の材料をうまく賄ってやっていますので、うちは比較的そこはうまく回ってるかなと。

ですから、ご質問に関しましては、自社製品に関しての供給に関する問題はない。製造に関する問
題はないと、こういうことです。

山崎 [Q]：分かりました。ありがとうございます。

あともう 1 点、胆道鏡のところについてなのですが、ご計画のところ、まだ計画に大きく入れる
ような状況ではないというお話があったと思うんですけども、もう少し具体的に製品改善の状況
ですとか、アップデートがありましたら教えてください。

鈴木厚宏 [A]：胆道鏡のシースの部分、カメラとともに、そこをちょっと予定してたんですけど
も、やはりシースの部分は主にうちが一番得意とするカテーテルのところでございますので、そこ
の部分にも、まだ市場に出して戦えるまでのレベルにきてないということで、ちょっともう 1 回見
直しをしてるんです。

ちょっと細かいところまでは、ご説明は省かせていただきますけども、やはり競争力があるもの
じゃないと、市場に出していく意味がないので、いったんそこをホールド。承認は取ったんですけ
ども、という状況にございます。なので、今もう 1 回やってます。

鈴木啓介 [A]：加えますと、4 年 5 年前のコンセプトで設計取り組んできたんですけど、ここにき
て、やはり海外から競合が入ってくる。そうするとうちの持っていたコンセプトでは、ちょっと戦
えないかなということも踏まえて、開発設計の見直しを今やってます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



正直なところ、その状況です。ただ、それ以外の胆道の製品に関しては、順調に改正が進んでいますので、ただ胆道鏡だけではないので、その周辺のところから攻めていこうかなと考えています。

山崎 [M]：ありがとうございます。

司会 [M]：ご質問ありがとうございます。

では、ご質問いただいております。みずほ証券、森様、ご質問お願いできますでしょうか。

森 [Q]：ありがとうございます。

まず、今年度のコロナの前提として、全くはやらなくて、それで悪影響を受けないっていう前提になっているのでしょうか。コロナ前提について教えてください。

山田 [A]：2024 年 3 月期の見込みに関しましては、コロナの影響というのは、基本的にはもう大きなものはないという前提で計画をしております。

森 [Q]：これ逆に、例えば病院がコロナからのリカバリーで手術件数を増やす、あるいは積極的に手術を行うっていう、プラス側のファクターをどのくらい織り込んでるのでしょうか。

山田 [A]：ご指摘の通り、そういうプラスの要因もあるかとは思いますが、一方で、医師の働き方改革、そういった問題もございますので。

コロナが収束をしたことによって、ある程度通常のコロナ前に近い状態に戻るとしても、コロナが収束したことによって、さらにプラスに作用するという認識は、現状ではこの計画に織り込んでおりません。

森 [Q]：計画段階で、プラスがどのくらい見るかですけれども、例えばコロナ前と同じだけの、AF だけでなく、グラフトの症例も戻ってくるって見ているのか、あるいは、そこよりは若干抑えているのか、この前提の水準感について教えてください。

山田 [A]：比較対象がちょっとコロナ前、コロナ中、どこかっていうところありますけれども。

絶対的なコロナ前ということよりも、先ほど例えば AF 症例でいえば 6%増ぐらいという形で、前期に対してどれぐらいマーケット、症例数が伸びるのかというような考え方でおりますので、なかなか絶対的にコロナ前に対してどうかというのは、具体的な数字としては申し上げにくいのかなと思います。

森 [Q]：ありがとうございます。2 点目をお願いします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



4 Branched などの時間短縮、手術時間の短縮に寄与するようなデバイスの御社の中に占める構成、それと、ここはどのように今、コロナ後に伸びてきているかについて教えてください。以上です。

鈴木厚宏 [A]：4 Branched のところですね。これ去年、前期、実質的には今期なんですけども。

まだこれからですので、どれぐらい占める割合って言われましても、ちょっとお答えにくいところがあるんですけども、ただ手技時間がかなり短くなるというのは、やはりわれわれが想像している以上に大きいという情報を得ておりますので、結構需要が出てくるんじゃないかなと、非常にその辺はポジティブに考えております。よろしいでしょうか。

森 [M]：結構です。ありがとうございます。以上です。

司会 [M]：ありがとうございました。野村証券、甲谷様お願いいたします。

甲谷 [M]：野村証券の甲谷と申します。ちょっと途中から参加したもので、既に質問出てたら申し訳ないんですけども、まず中計の 17 ページ目に書いてあります、BeeAT の他社品なんですけど。

これ今、われわれちょっと外部的に見ているものは何社かあると思うんですけど、どのぐらいの会社が入ってきて、多分やはり、われわれどうしても RF Needle のときに競合品出てきて、価格下落が起きたってということがありますので、その部分を見て、どうしてもちょっとここは慎重に考えなきゃいけないんですけども、これについてまず、どうお考えなのか教えていただけますでしょうか。

鈴木厚宏 [A]：BeeAT のところですよ。

今後、1 社ないし 2 社、2 社ぐらいまでは、参入があるんじゃないかなということと、弊社は 2012 年から治験をやった上で、2012 年から導入しておりまして、その間にジェネレーター、カテテルとともにいろんな改良を加え、また今進行期にも新たなモデル、いわゆる上から入れる部分と下から入れる部分があるんですけども、その辺も導入していきます。

それと、やはり心腔内除細動ですので、そうそう簡単なものではないので、この 10 年以上ずっと、われわれがここをやってきたところは、使用する側にとっての信用、信頼もありますし、そうそう簡単に攻められて、崩されるとはわれわれは考えておりません。

いわゆる新モデルも追加して、その対策は一応打ってきておりますので、全国でかなりの施設でこれを使っておりまして、うちの営業マンもこれだけの今までの経験則もございまして。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



やはり心房細動を止めるためのショックといえども、一つ間違えると心室の方の VT/VF を誘発するという非常に危険な部分がありますので、そこに対して非常にわれわれも、われわれの製品に対して自信持っておりますので、そうそう簡単に崩されるものじゃないと考えております。

甲谷 [Q]：2 点目最後なんですが、リズムデバイスの通期予想 2024 年 3 月期なんですけど。

やはりこれ今、中長期を考えても ICD のところが伸びなきゃいけない、ペースメーカーは結構競争が激しくなっていますので。S-ICD に関しては、やはりちょっと以前かなり期待していたんですけども。

掘り起こしが必要だっていうのは多分 2023 年 3 月期ぐらいにあったと思うんですけども、もうこれに関してはある程度伸びるめどがついたのでしょうか。この S-ICD の今の近況というのを教えていただけますでしょうか。これが最後です。

鈴木厚宏 [A]：S-ICD、めどがちょっとはっきりこういう理由でめどが見えるというところまで、まだ言える状況じゃありませんが。

ただ一つ、やはりコロナ期間でプロクター、教えに行く先生が、植込みの仕方を教えに行かなきゃいけなくなりますので、そこはもうかなりオープンになっていくということと。

ちょっと前に製品の問題も出ておりましたので、そこはもういったんバッテリーの問題があったので、収束しつつございますので、ここから、この間もう 1 個あります、一次予防です。一次予防の啓もうを相当してますので、われわれは。

今進行期以降は、さっき言ったその問題もかなり収束していきますので、プロクターの先生の動きもできますので、ここは本当に伸ばさなきゃいけないし、もう伸ばせる条件がそろってきたんじゃないかなと考えております。

甲谷 [M]：分かりました。ありがとうございます。

司会 [M]：ご質問ありがとうございました。

では、以上で質疑応答を終了させていただきます。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com